# AREホールディングス、年間配当予想155円へ増額｜電子材料と北米事業の増益、資金繰りを点検

開示：2026年11月4日15時30分 JST / 作成：2026年11月5日




AREホールディングス（5857）は11月4日15時30分、2027年3月期の年間配当予想を135円から155円へ引き上げました。前期実績125円からは30円の増配予想です。電子分野の需要と北米事業が利益を押し上げる一方、運転資金と借入の動きが配当の持続性を判断する鍵になります。

## 1．総評｜増配の根拠は利益の上振れ、確認点は現金の回収

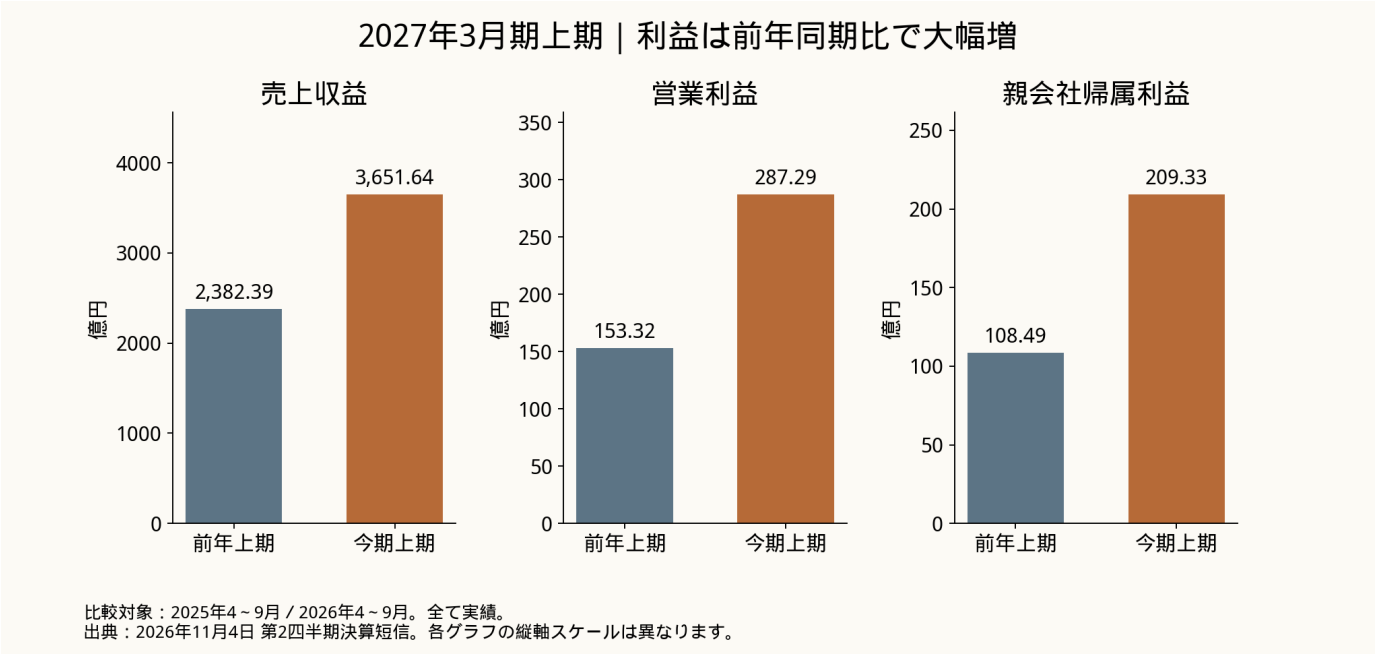
中間配当は65円予想から75円に決定、期末配当予想は70円から80円へ増額しました。年間155円は期末分を含む会社予想であり、全額が確定した配当ではありません。

今回の強さは、貴金属価格だけで説明できません。会社は、AI・データセンター関連の電子分野の需要拡大、在庫圧縮に伴う販売量増加、北米での裁定取引の収益拡大などを説明しています。上期の親会社帰属利益は前年同期比92.9％増でした。

一方で、配当性向40％を目安とする方針は、減配しない約束ではありません。過去の減配からの回復、営業キャッシュフロー、事業拡大に必要な資金を合わせて確認します。

出典：修正開示・上期決算短信（2026年11月4日）

## 2．決算｜通期営業利益予想を410億円から520億円へ




比較対象：2025年4～9月 / 2026年4～9月。全て実績。
出典：2026年11月4日 第2四半期決算短信。各グラフの縦軸スケールは異なります。

通期予想は売上収益6,800億円→7,000億円、営業利益410億円→520億円、親会社帰属利益290億円→360億円に引き上げました。修正後の1株利益予想は422.98円です。上期の進捗率は営業利益55.2%、親会社帰属利益58.1%ですが、下期も同じペースで進むとは限りません。

上期実績は、従来の会社計画に対して売上収益10.7%、営業利益43.6%、親会社帰属利益49.5%の上振れでした。発表前の市場コンセンサスは確認できていないため、市場期待を超えたとまでは断定しません。

貴金属リサイクルでは電子分野の金回収量が増加しました。宝飾分野は回収量が減った一方、採算改善で増益となっています。北米は精錬入荷量・製品販売量の増加と、裁定機会を捉えた取引が寄与しました。金価格上昇だけを増益理由とする読み方は不十分です。

上期の営業キャッシュフローは631.68億円となり、前年同期の490.74億円の赤字から改善しました。ただし、棚卸資産の減少164.02億円や、営業債務等の増減629.71億円などの影響を含みます。利益から毎期安定して生まれる現金と同一視できません。

2026年9月末の社債・借入金は合計2,630.27億円。会社説明では前期末比798.24億円の増加です。現金同等物は157.98億円、自己資本比率に相当する親会社所有者帰属持分比率は37.5%から32.2%に低下しました。包括利益の減少にはキャッシュフロー・ヘッジの評価変動も含まれるため、そのまま現金損失とは扱いません。

| 項目（億円） | 上期実績 | 前年同期比 | 通期修正予想 |
|---|---|---|---|
| 売上収益 | 3,651.64 | +53.3% | 7,000.00 |
| 営業利益 | 287.29 | +87.4% | 520.00 |
| 税引前利益 | 286.75 | +106.8% | 510.00 |
| 親会社帰属利益 | 209.33 | +92.9% | 360.00 |

出典：上期決算短信1～3・6・8・11ページ。社債・借入金合計は流動・非流動の表示額を合算。増減額は会社本文に従うため百万円単位の丸め差があります。

## 3．事業｜貴金属を集め、精錬し、付加価値を付ける




AREは電子部品、宝飾品、歯科材料、触媒などから貴金属を回収するリサイクル事業と、北米での精錬・製品加工・倉庫・取引関連事業を展開しています。電子分野の回収量増加と採算改善が、今回の業績を支えています。

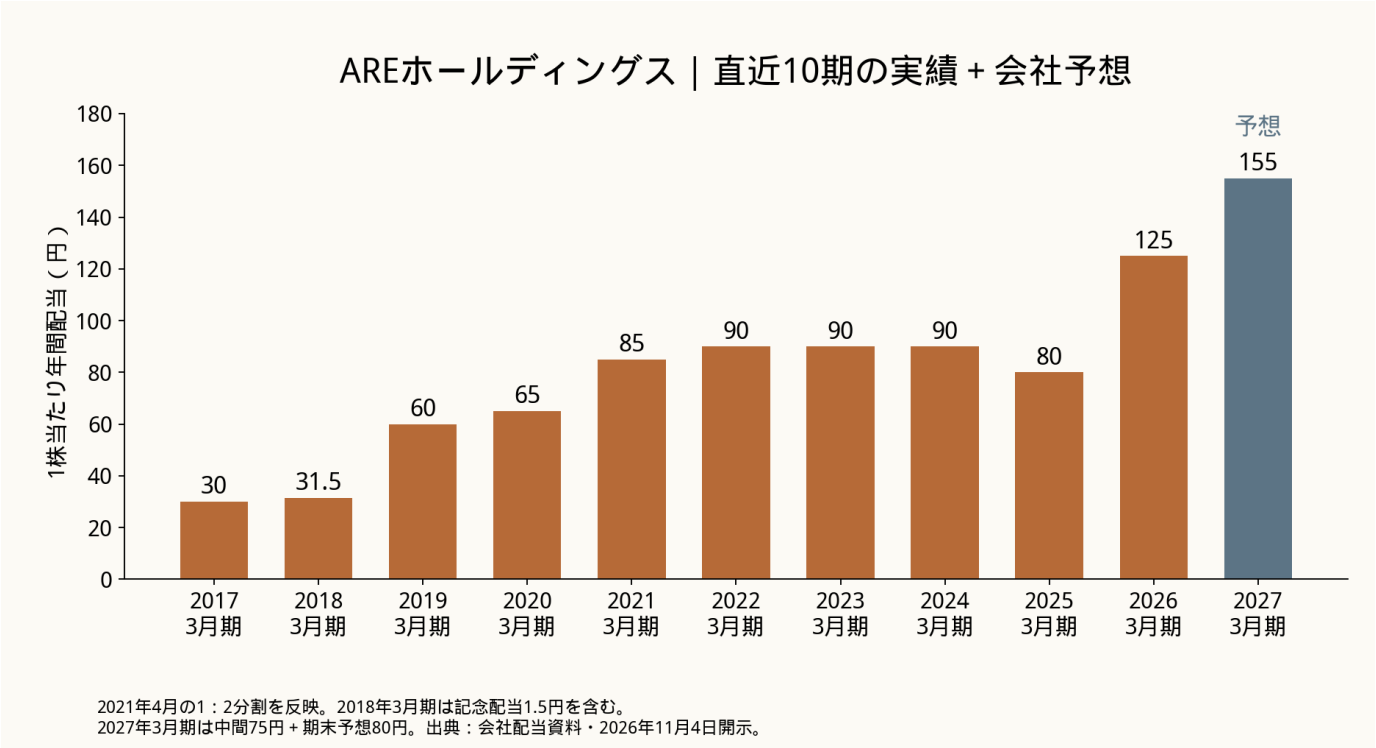
北米では、原材料の分析後に貴金属を担保として資金を調達し、顧客に前払いする取引もあります。精錬・販売・資金回収までの間に資産や借入が膨らみやすい構造です。借入残高だけで直ちに危険とは判断できませんが、資金回収と調達条件の点検は欠かせません。

2025年3月期の有価証券報告書では、貴金属製品前渡取引向け借入金の一部増減を、営業キャッシュフローの営業債務等の増減に含める処理が説明されています。一般的な製造業の営業キャッシュフローやネット有利子負債と単純比較しないことが重要です。




出典：上期決算短信 / 2026年3月期決算説明資料 / 2025年3月期有価証券報告書「31．キャッシュ・フロー情報」

## 4．還元方針｜40%は目安、累進配当の明示はありません




2021年4月の1：2分割を反映。2018年3月期は記念配当1.5円を含む。
2027年3月期は中間75円＋期末予想80円。出典：会社配当資料・2026年11月4日開示。

現行方針は「配当性向40%を目安とした安定配当」です。累進配当やDOEを下限とする方針の明示は、確認した現行資料にはありません。今回の増配は業績予想の引き上げを伴いますが、翌期以降も155円以上を維持する保証ではありません。

直近10期（2017年3月期～2026年3月期）は無配なしです。ただし、2025年3月期には90円から80円への減配があります。2024年3月期は株式交換差益を含み、親会社帰属利益244.90億円。翌期は143.19億円へ減少しました。会社資料は80円配当と自己株式取得を合わせた還元を説明しており、利益の特殊要因と還元配分の変化が減配の背景だったと解釈します。「特別配当が剥落した」とは断定しません。

その後、2026年3月期の親会社帰属利益は244.41億円に回復し、年間配当実績125円は減配前の90円を上回りました。減配歴だけを理由に一律除外する状態ではありません。ただし、利益と配当の回復と、資金面の改善は分けて評価します。

配当グラフは2021年4月1日の1：2分割後に統一しています。2018年3月期の31.5円には、分割後換算で記念配当1.5円を含みます。2027年3月期155円は予想です。

増配余地は、利益成長と還元を実行する意思の両方から評価します。今回の増益と増配は意思の裏付けになりますが、配当性向40%は目安であり、現在の予想性向36.64%との差だけを追加増配の約束とは扱いません。成長投資と運転資金の確保が優先される可能性もあります。

出典：会社配当情報、2020年・2026年通期決算説明資料、2024年7月決算説明資料18ページ、2018年有価証券報告書、2026年11月4日修正開示

## 5．中長期計画 | 拡大する事業を資金回収につなげられるか

2026年5月に更新された中長期ビジョンは、2030年度（2031年3月期）の売上収益7,500億円、営業利益500億円を掲げています。今回の2027年3月期営業利益予想520億円は、その利益目標を上回る水準です。ただし、中長期目標自体が今回さらに修正されたことを意味しません。

成長の方向は、電子分野の回収拡大、プレミアムを付けたリサイクル貴金属、海外での原材料回収、北米の関連サービスの拡大です。継続的な需要・加工収益と、市場環境で変動する取引収益を区別して追いたいところです。

今後の確認点は、①電子分野の回収量と採算、②北米の取引収益が落ち着いた場合の利益水準、③在庫・債権の回収と資金調達負担です。上期の営業キャッシュフロー改善が通期でも続くかを重視します。

出典：2026年3月期決算説明資料「中長期ビジョンのアップデート」、2026年11月4日開示

## 6．株価での魅力と投資判断 | 低PER・高利回りでも今回は見送り

取得基準：直近終値（2026年11月4日15時30分）。取得日時：2026年11月5日05時45分 JST。出典：Yahoo!ファイナンスとトレーダーズ・ウェブを照合。市場時間外のためリアルタイム取引値ではありません。トレーダーズは15分遅延表示ですが、今回使用した確定終値は一致しています。

| | |
|---|---|
| 銘柄・市場 | AREホールディングス / 5857 / 東証プライム |
| 直近終値・前日比 | 3,070円 / ＋15円（＋0.49%） |
| 当日高値・安値 | 3,105円 / 2,923円 |

| | |
|---|---|
| 出来高・時価総額 | 839,600株 / 2,666.40億円 |
| 52週高値・安値 | 確認できない（年初来値で代用しません） |
| 直近決算発表 | 2026年11月4日 |

評価指標は株価サイトの自動計算を転記せず、今回の会社予想で再計算しました。予想PER = 3,070÷422.98 = 7.26倍、予想利回り = 155÷3,070 = 5.05%、予想配当性向 = 155÷422.98 = 36.64%です。PBRは9月末自己資本・自己株式控除後株数によるBPS約2,314.31円を使い、1.33倍。ROE13.7%は2026年3月期実績で、将来予想ではありません。

一次選別の除外条件（PER15倍以上、ROE5%未満、配当性向60%以上、利回り1%未満）には該当しません。重視条件はPER10倍以下・ROE8%以上・利回り3%以上の3項目を満たし、配当性向30%以下は未達です。4項目全てを必須条件にはしていません。

利益の持続性は良好です。直近3期のROEは21.0%・11.3%・13.7%で中央値13.7%、営業利益は123.67億円・199.84億円・370.88億円と増加しています。一方、同じ3期の営業キャッシュフローは126.21億円・146.85億円・▲993.85億円、累計▲720.79億円です。2期は黒字でも累計は赤字で、財務評価は×とします。これは本企画の配当持続性評価であり、企業の破綻リスクを判定するものではありません。

筆者判断は、新規購入を見送りです。数値の一次選別通過、減配前を上回る配当実績、上期の資金改善は明確なプラスです。それでも、前期の大きな資金流出に対して上期だけでは回収の継続性を確認できず、9月末の借入残高も増えています。市場環境で変動する北米の取引利益を含む低PERを、安定した割安さとまでは評価しません。

累進配当がないことだけで見送るわけではありません。通期での資金回収の継続、事業規模に見合った借入負担の改善、取引収益の変動を吸収できる利益基盤が確認できれば再評価します。既存保有株の売却指示や自動発注を意味する判断ではありません。

| チェック項目 | 条件・位置付け | 今回の判定 |
|---|---|---|
| 予想PER | 重視：10倍以下 | ○ 7.26倍 |
| 収益性（ROE） | 重視：8%以上 | ○ 13.7%（前期実績） |
| 予想配当性向 | 重視：30%以下 | × 36.64% |
| 予想配当利回り | 重視：3%以上 | ○ 5.05% |
| 10期の配当 | 無配なし。減配は原因・改善・回復を確認 | 無配なし / 減配あり。配当は回復 |
| 累進・DOE・増配期待 | 明示方針と利益・実行意思を区別 | 累進・DOE：明示なし / 期待：○ |
| 財務 | 配当原資・投資・借入負担 | × 資金回収の変動と借入増 |




出典：株価2媒体、上期決算短信、2026年通期決算短信、2025年有価証券報告書。財務の丸罰と購入判断は筆者の評価です。

## 出典・計算基準

会社情報は上記開示時点。資料確認・株価再照合：2026年11月5日05時45分 JST。会社予想と実績を区別しています。図解は架空の演出です。

2026年11月4日 業績・配当修正開示

2027年3月期 上期決算短信

2026年3月期 決算短信

2026年3月期 決算説明資料

会社配当情報

2025年3月期 有価証券報告書

2024年7月 決算説明資料

2020年3月期 決算説明資料

2018年 有価証券報告書（記念配当）

Yahoo!ファイナンス 株価

トレーダーズ・ウェブ 株価